



今回は、ピクチャーブック「Sunshineの地図」の表紙の絵を描いてくださった、二本松市出身の画家・斎藤真実さんに原稿を執筆していただきました。裏面にその絵を掲載しておりますので、併せてご覧ください。

## 「HOPE」の制作について

斎藤真実（画家・二本松市出身、神奈川県小田原市在住）

2024年が開けてまだ間もない1月中旬のある日、近藤さんから一本の電話が入りました。近藤さんたちが出演されているドキュメンタリー映画「原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち」のDVD化に際して、株式会社 Sunshine のピクチャーブックを作成し同封することになり、その表紙の絵をわたしに描いてほしいという、とんでもなく嬉しいご依頼の電話でした。二つ返事で「やらせていただきます！」と引き受けたのは言うまでもありません。

そもそも近藤さんとは、この映画がきっかけで知り合いました。全ての始まりは2022年秋、映画との運命的な出会いからでした。何の予備知識もなく、偶然予告編を目にした時の衝撃を、今でも鮮明に覚えています。なぜなら、そこには愛してやまない故郷二本松の風景があり、また、かつて幼稚園のアート教室で教えていた塚田さんの成長した姿（農場長！）があったからです。思わず「えっ!？」と声をあげ、身を乗り出して見入ってしまいました。

それから予告編を何度か見返し、映画について調べるうちに、原発にきっぱりとNOを突きつける樋口元裁判長や、困難を乗り越え挑み続ける、近藤さんをはじめとする福島の農家さんたちの姿に励まされ、そして、この映画を世に送り出す小原浩靖監督の決意に、強く心打たれました。その後、現在暮らしている神奈川県小田原市でこの映画の自主上映会を開催することになり、そのご縁で小原監督や近藤さんとお会いし、塚田さんとも久しぶりの再会を果たすことになったのです。



栽培中のシャインマスカット

さて、冒頭の電話を切った後すぐ、「どんな絵にしようか？」と、まず考えました。二本松に帰省した際に訪れた笹屋農場の風景や、働いている皆さんのお顔、農場で育つ作物、映画の中の印象的なシーンを思い出したり…。そして最初に、「豊かでキラキラしたイメージにしたい」という思いが浮かびました。それから、映画を製作された小原監督とも連絡をとり、その時に監督からいただいたある言葉が、最終的に作品のイメージを決定づけることになりました。それは「希望の農場」という言葉。「希望」という言葉は、近藤さんが映画の中で仰っているキーワードでもあります。原発事故の後、絶望の淵から立ち上がってからずっと己の中に持ち続け、周りにも伝え続けてこられたのであろう「希望」という言葉。この言葉を中心にイメージを作ろう！と決めました。

普段は抽象画を描いているわたしですが、今回は農場で育てられている作物の形や色のイメージも描き込みました。太陽と大地の恩恵に包まれ、関わる皆さんの思いが降り注ぎ、温かく、明るい未来に溢れた「希望の農場」の風景。描いている間はずっと農場の風景が頭に浮かんでいました。ソーラーパネルの下を吹き抜ける清々しい風、太陽と大地の温かさ、川音、豊かに育つ作物、農場の皆さん。いろんな風景を思い浮かべながら、ひと筆ひと筆描き進めました。それはわたしにとっても、非常に希望に満ちた時間でした。まるでわたし自身が株式会社 Sunshine の一員になったかのような気分にもなり、完成した瞬間は、満足感と共に淋しさが押し寄せてきた程です。

作品のタイトルは「HOPE」としました。豊かな未来へと、力強く向かっていくように希望を込めて。小さい作品の中に、大きな希望を感じていただけたら嬉しいです。



映画 DVD は  
公式ホームページと  
Sunshine  
オンラインショップで  
絶賛販売中！



「HOPE」  
は裏面へ→